

平成 27 年度の学校評価

<p>本年度の重点目標</p>	<p>①様々な体験や世代・領域を超えた多くの人との出会いの場の提供と積極的な活用 ②生徒の可能性を引き出し、能力を最大限に伸ばすことのできる教員・生徒間の信頼関係の醸成 ③学習不振、学校不適応、発達障害など特別に支援の必要な生徒についての日常的な情報交換と組織的対応 ④ホームページ・中学校訪問などを通じた的確で迅速な情報発信 ⑤安全で快適な教育環境の整備 ⑥組織及び個人の両面におけるコンプライアンスの徹底</p>		
項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
<p>総務</p>	<p>①広報活動の充実 ②防災意識の向上 ③学校と保護者の協力体制の充実 ④創立 100 周年に向けた事業の推進 ⑤文書の整理</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの内容充実 ・防災教育の研究と実践 ・PTAとの情報交換 ・PTA、同窓会との連携 ・古い文書整理 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ掲載までの手順を明確にして迅速で、担当者の負担が少ない内容更新とした。今後は更新回数をさらに増やすことを検討したい。 ・防災避難訓練の内容を再検討した。また、あいちシェイクアウトに参加するなどして生徒の減災意識の啓発に努めた。 ・PTA理事会毎に保護者の意見を伺い、それに対して解答することで、情報の共有や学校側の考えを理解していただく機会とした。 ・記念式典等、総務がかかわる行事が円滑に行えるよう、計画的に進めていきたい。 ・古文書は整理し破棄した。次年度からは、年度末に確認して整理していく予定である。
<p>学習指導</p>	<p>①65分授業の充実 ②個々の生徒に応じた学習指導法の確立</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各教員が自身の教科指導力を高め、授業改善を図る。 ・生徒の多様化に対応した学習指導を行い、生徒が主体的に学習する姿勢を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「年間指導計画並びに実施表」を活用し、学習指導計画をきめ細かく立案できた。さらなる改善を目指し、教員が入れ替わっても指導がぶれないようにしたい。 ・「授業感想アンケート」については、教科ごとに結果を出し、その結果を次年度の指導に反映させる。 ・生徒の家庭学習時間が減少傾向である。学年会、教科会等において家庭学習時間確保のための対応策の検討を行う必要があると感じている。 ・問題意識を教員間で共有し、各教科で教材や指導法を工夫して学習指導を行った。また、必要に応じて個々の生徒をサポートすることができた。
<p>生徒指導</p>	<p>①基本的な生活習慣の確立 ②マナーの向上 ③安全確保の推進 ④教育相談の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・欠席、遅刻、早退の理由を把握し、適切な指導を行う。 ・公共でのマナーの意識を高めさせる。 ・あいさつを励行 ・高校生らしい身だしなみを日常的に意識させるようにする。 ・生徒の安全を考え、組織的に対応する。 ・生徒に交通安全に対する意識を高めさせる。 ・予防的な教育相談活動に取り組む。 ・不適応生徒を早期に把握し、組織的な対応を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・週末および、月末に出欠状況を把握している。1学期は芳しくない遅刻の状況であったが、2学期半ばから改善されてきた。引き続き、遅刻過多者に対する指導やクラス・学年での指導が必要である。 ・遅刻の多発が想定される時期に遅刻防止週間を設定し、指導を強化した。遅刻防止週間に対する認識のない生徒が遅刻者の中に多く見受けられた。 ・交通安全の面から自転車のマナーを中心に、公共でのマナーを機会あるごとに呼びかけ指導した。交通事故は軽微なものが主であったが、件数は決して少なくなく、継続した指導が必要である。 ・あいさつの励行を防犯面からも呼びかけた。継続して呼びかける必要がある。 ・身だしなみ指導を通して、生徒の自覚を促し、組織的に指導することができた。 ・防犯マニュアルを作成し、組織的な対応を図った。 ・交通安全、交通マナーについて、各クラスでのST、LTおよび全校集会を通じて呼びかけた。 ・地域、PTAと協働して交通量の多い交差点を中心に交通安全街頭指導を実施した。 ・生徒交通委員が安全マップを作成し、交通安全に対する意識を高めた。 ・クレペリン検査や健康観察等を通し、予防的な教育相談活動に取り組み、精神健康度の向上を図った。 ・学年会および保健部、スクールカウンセラーとの連携により、生徒の精神的健康状況や不適応生徒の状況を職員間で共有し、精神的ケアに努めることができた。 ・今後、ますます多種多様な生徒の増加が考えられるので、より密な連携、情報共有が必要である。

進路指導	<p>①進路選択能力の育成</p> <p>②進路に応じた進路設計</p> <p>③進路目標の堅持と幅広い視野の育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・面談、進路相談の充実 ・適切な資料提示 ・進路検討会・入試情報交換会の充実 ・入試制度改革への対応準備 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路検討会を柱とした指導をし、進路アンケート・担任による面談指導を通して、継続的な進路指導ができた。視野を広げさせ、より高い志望を持たせるようにした。 ・進路のしおりを毎年更新して発行し、進路LT等で活用し、進路意識を高めた。 ・難関大説明会・医学科説明会・学部学科説明会、東大見学会を実施し、OBとの接する機会を増やした。
生徒会活動	<p>①部活動の充実</p> <p>②生徒の力で作り上げる生徒会行事</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・顧問会議と部長会議の有効活用をする。 ・生徒会執行部を中心とした指導体制の確立。 ・生徒の力で各種行事が運営できるように意識を高めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・総体尾張予選で5年ぶりに男女共に優勝し、各部の努力の結果を示すことが出来た。また、陸上部が東海大会、全国総体に出場することができた。 ・執行部への立候補も多く、期日通りに成立した執行部は積極的に行事に取り組み、各委員会とも協働し、充実した学校祭、予餞会を行うことが出来た。 ・各種行事に生徒が主体的、積極的に取り組んだ。
学校図書館	<p>①図書館の利用機会、利用者数、年間貸出冊数の増加</p> <p>②図書館の環境整備</p> <p>③視聴覚室の機器の整備</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業、LTでの図書館利用を呼びかけ、広報活動、図書委員会の活動を充実させる。 ・利用、管理しやすいよう館内の環境を整える。 	<p>①図書委員会の活動は、ビブリオバトル、古本バザー、読書週間行事等、成功を収めた。図書館たより、新着図書案内も定期的に発行できた。今年度から「読書LT」も設定していただいた。(1、2年)しかし、書籍の貸出冊数は増加していない。</p> <p>②書庫内の古い書籍の廃棄を進めている。今年度から、バーコードリーダーを用いての蔵書点検を開始した。</p> <p>③視聴覚室を利用しやすいよう機器の整備に努めている。</p>
学校保健	<p>①美化活動の充実</p> <p>②環境問題への取り組みの充実</p> <p>③保健・安全教育の充実</p> <p>④保健安全指導の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・通常清掃・特別清掃の充実を図る。 ・ゴミの減量・分別・リサイクルを徹底させる。 ・生徒保健委員会活動の充実 ・心身の健康や安全指導の充実 ・健康観察の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・通常清掃、特別清掃(校内外美化活動、スノコ清掃、側溝清掃)ともに職員・生徒の協力で実施できた。 ・文化祭の当日清掃は、生徒会と協力して実施できた。 ・古紙回収は、事務と調整の上、7月から一部変更し、その後、ほぼ順調に実施できている。 ・ゴミ分別の基準について、従来より少し具体化し、2学期始めに生徒全員にも配布した。 ・少数だがゴミ分別が理解されていない状況が見受けられた。当番生徒が対応してくれているが、意識をより一層高めるように指導していきたい。 ・生徒保健委員により、毎日の気温・湿度測定、上水道の水質検査や、月を決めての保健だよりの発行、などを行っている。また、夏季は熱中症予防、冬季は感染症予防のためのポスター製作を行った。 ・ゴミ分別係を設置し、分別状況を把握し、その結果を踏まえて、2学期終業式で保健委員長が生徒全体に訴えかけた。 ・救急対応(エピペン、AED)について、職員会議で説明し理解を深めた。 ・部活動の部長・マネージャー、体育祭群団長を対象に熱中症を中心にした安全講習会を実施したことが功を奏し熱中症で受診する生徒はいなかった。 ・担任から健康観察報告が遅れた場合があったので、健康観察の重要性を改めて周知し、保健室からも積極的に情報提供するなどして組織的に取り組む必要がある。 ・生徒指導部との連携をより密にすることで、生徒対応を迅速に行えるようにした。 ・日本スポーツ振興センターの災害給付を利用するけがの発生が例年多く、体育科や部活動顧問とも相談しながら対策を立てる必要がある。

SSH	<ul style="list-style-type: none"> ① 学校設定科目「SSH 理科課題研究」開設の成功 ② SSH 事業の客観的事業評価の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題設定の過程に重点を置く。 ・教員間の情報交換を密にする。 ・レポート評価の客観指標を作る。 ・個人レベルの変容把握を試みる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの教員の共通理解が進んで授業の指導が充実し、生徒の意欲的な活動を引き出すことができた。 ・課題設定については、検証方法までを考慮した具体的な仮説を作る能力に課題がある事が判り、今後、この指導に重点的に取り組む予定である。 ・定期的な意識調査を重ねる事により生徒の変容の様子を客観的に評価することができた。 ・「SSH 理科課題研究」では、試験的にルーブリックによる評価を導入して効果が上がった。次年度にはこの手法を採用する予定である。
ファッション創造科	<ul style="list-style-type: none"> ① 専門的知識・技術の習得 ② 創造力・実践力の育成 ③ 地域社会に貢献する人材の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・ファッションや保育に関する専門的知識・技術を習得させる。 ・豊かなライフスタイルを創造する能力や実践力を育成する。 ・地域社会が求める資質や能力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ファッションや保育の分野の専門性を高め、特に子どもの文化コースにおいては、教材の精選、検定資格取得、保育現場での実践力向上に努めた。 ・各コースにおいての特色を活かし、物作りの楽しさ、創造・実践する喜び等の体験を通して生徒自身の自信につながりコンテスト結果等様々な成果を得ている。 ・今年度初めて一宮青年会議所主催のグルメグランプリでや一宮特別支援学校の文化祭で3年生中心のステージ発表をし、地域への発信力を高めた。また、2年生のインターンシップでは就業体験力を身につけ、卒業研究発表会においても3年間の実践結果を披露し、生徒の資質や能力の向上を図った。
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の涵養と仲間と切磋琢磨する経験 	<ul style="list-style-type: none"> ・高い目標の設定 ・能動的な学習法の確立 ・人間関係の構築 ・学びの環境整備 ・基本的習慣の早期定着 	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に学習に取り組むことのできる生徒が一定数いるものの、半数以上の生徒は受動的である。教材の工夫によって、受動的な学習でも効果をあげられるような工夫をされてはいるが、まだまだ改善が必要である。 ・複数回のアンケートによれば、いじめもなく、良好な人間関係が構築されている様子がうかがえる。しかし、学年全体では遅刻や欠席が多く、自分に対して甘い生徒が多いと考えられる。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・「自立・自律する心の育成、仲間との共生」 	<ul style="list-style-type: none"> ① 自立・自律する姿勢 ② 学習習慣の確立と学力の向上 ③ 高い進路目標とキャリア設定 ④ 教養・社会性の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ① 学校行事などでは、自ら計画し協力して取り組んでいるが、学業とその他の物事のバランスが上手く取れない。耐性に欠けるなど幼い面も見られる。 ② 家庭での学習習慣が身につかない生徒がいる。記録表を書くことや面談を通じて意識向上を促したい ③ 夏休みに希望する大学や専門学校のオープンキャンパスに参加させ、その情報を共有させた。 ④ 文化講演会などで現代社会の抱える諸問題を理解させたり、時事問題を新聞で読ませたりしている。また行事や部活動など学校の中心となって活動するよう学年集会や学年便りを利用して伝えている。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・「逞しい心身の育成」 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路志望の設定と実現 ・社会人としての基盤の確立 	<ul style="list-style-type: none"> ・担任の先生方をはじめ、多くの先生方のきめ細かい指導の甲斐あって、生徒達の進路志望はしっかりと設定され、生徒達はその実現に向けて日々努力を重ねている。しかし、一部には受験で楽をしたい、という安易な進路志望の設定をしてしまっている生徒もいて、改めて長期的な進路指導の重要性を認識させられた。 ・入学時から集会のたびごとに挨拶を奨励してきており、その甲斐あって生徒達はしっかりと挨拶をしてくれていて、体育祭では群団の垣根を越えて助け合う場面を何度も見ることができ、精神的に成長していると感じられた。1学期には毎日朝補習があり、2学期以降もその流れで朝早く登校する生徒が1、2年のころより増えた。一方でぎりぎりに登校したり遅刻する生徒も2学期以降増えており、時間を守る、時間に余裕を持つことの重要性を様々な場面で確認させるべきであると感じた。
総合評価	<p>具体的方策に対する取組は、前年度の評価結果に基づいて全体として改善が図られているが、成果としてはまだ不十分なものがあるので、来年度に向けて問題点を整理し、検討していく必要がある。</p>		